

# 大阪府不妊専門相談センターの取組

## 取組のポイント

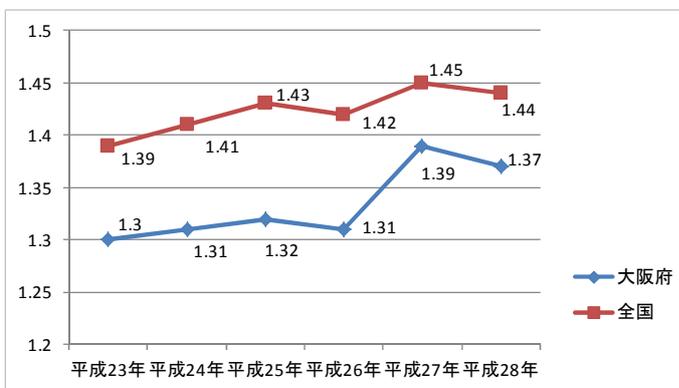
- ・ 様々な悩みを抱えた人を支援し、多様性を尊重する理念に基づいた事業（相談支援、交流会、講演会）に取り組み、様々なニーズに対応。
- ・ 不妊治療の当事者及び経験者の交流会（サポート・グループ）をテーマ毎に5～6回1クールで開催し、支え合いによるエンパワメントを醸成。

## 1 大阪府における不妊治療施策の位置づけ

大阪府は人口約 886 万人、世帯数約 422 万世帯<sup>1</sup>である。大阪府の合計特殊出生率<sup>2</sup>は平成 23 年から 1.3 台前半で推移し、平成 27 年には 1.39 に増加したが、依然として全国平均を下回る水準で推移している（表 1-1）。

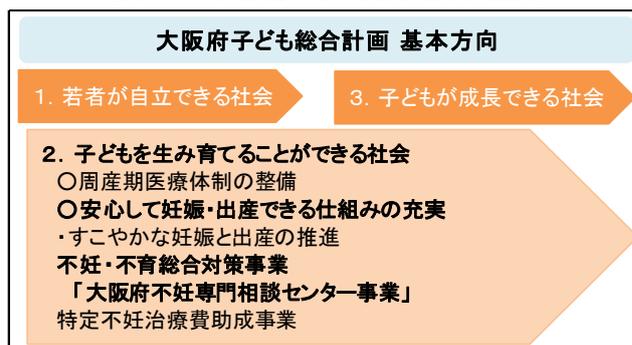
大阪府では、子どもを取り巻く環境や家庭及び社会の現状に対応する施策として、平成 27 年に「大阪府子ども総合計画」を策定した。子どもの成長を社会全体で支え、次世代に続く子育て環境の整備を目的とした方向性の 1 つ「子どもを生み育てることができる社会」において、「安心して妊娠・出産できる仕組みの充実」を掲げている。それに基づく「不妊・不育総合対策事業」において「大阪府不妊専門相談センター事業」と「特定不妊治療費助成事業」が実施されている（図 1-1）。

【表 1-1 年次別合計特殊出生率】



※1 平成28年人口動態調査(厚生労働省)による  
※2 全国値は母の年齢15～49歳の各歳における出生率の合計。都道府県の値は平成26年まで、平成28年は母の年齢5歳階級における出生率5倍の合計、平成27年は母の年齢15～49歳の各歳における出生率の合計。

【図 1-1 大阪府の子ども総合計画 概要】



[アフターサービス推進室作成]

## 2 大阪府不妊専門相談センターの概要

大阪府不妊専門相談センターは、一般財団法人大阪府男女共同参画推進財団

<sup>1</sup> 人口 886 万 1,437 人、世帯数 422 万 3,735。「平成 29 年住民基本台帳・世帯数」（総務省）による。

<sup>2</sup> 1 人の女性が一生の間に産むとされる子どもの数の指標。全国地は母の年齢 15 歳～49 歳の各歳における出生率の合計。

(以下「ドーン財団」という。)が平成14年に大阪府から委託を受け、「大阪府立男女共同参画・青少年センター」(以下「ドーンセンター」という。)に開設された。ドーン財団は平成6年の設立時から「男女が対等な立場であらゆる分野へ参加・参画することができる社会の創造」を理念としており、ひとり親やDVの被害を受けているなどの困難な状況にある女性の支援も行ってきた。

大阪府は、ドーン財団が女性の様々な悩みに対して相談事業を実施してきた実績と関係団体とのネットワークを築いてきた点を重視し、不妊に悩む人たちの精神的なサポートに対応することができる団体として、大阪府不妊専門相談センターの事業を委託した。

また、ドーンセンターが相談事業の事務局としての運営機能をすでに有していたことや、ライブラリーや会議室等を有する複合施設であり、相談事業に必要な既存の施設であったことも利便性が見込まれた。

大阪府不妊専門相談センターの運営に当たっては、ドーン財団が事業内容を企画し、大阪府の担当者(健康医療部保健医療室地域保健課)と相談した上で進めている。また、公益社団法人家庭養護促進協会が同センター事業において里親制度の紹介を行うなど(後述)、事業の内容に応じて他機関との連携体制を築いている。

### 3 相談体制

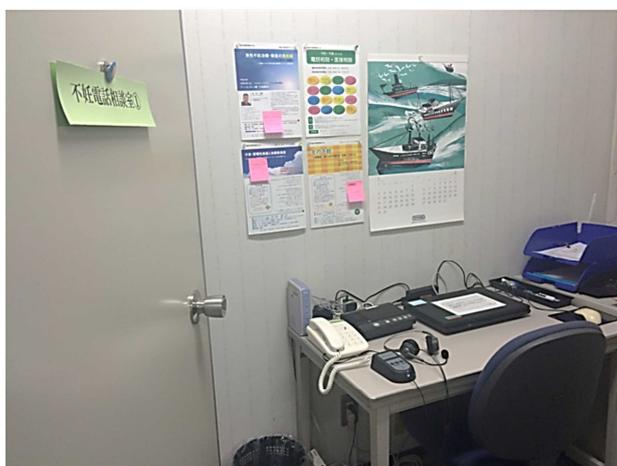
#### (1) 電話相談

相談体制としては、電話相談と面接相談を実施している。電話相談は表3-1のとおり水曜と土曜に実施しており、月2回は19時まで開設している。相談員は、大阪府不妊専門相談センターの開設当初から現在まで、大阪府助産師会に所属する助産師が担当している。相談員には、不妊の専門知識を持つ看護師と不妊を専門とするカウンセラーもいる。

電話相談のうち、第4土曜の15時から16時は女性の産婦人科の医師が担当する専門相談として対応する。



【ドーンセンター 外観】



【電話相談スペース: 筆記しやすいようヘッドセット(イヤホン)を装着して対応]  
相談員から:「1人で悩まず気軽にご相談ください。お電話お待ちしております。」

## (2) 面接相談

面接相談は第4土曜の16時から17時に開設している。相談員は電話相談の専門相談と同様に女性の産婦人科医師が担当しており、相談時間は1人(1組)30分である。相談に際しては、多様な相談に対応するために、助産師の相談員も必ず同席している。

【表3-1 大阪府不妊専門相談センター 相談体制】

相談対応	曜日	時間	相談員
電話相談	第1・3水曜	10時～19時	助産師
	第2・4水曜	10時～16時	
	第4土曜	13時～16時	
専門相談	第4土曜	15時～16時	産婦人科医師
面接相談	第4土曜	16時～17時	

※1 電話相談は通常2回線に対応している。

[アフターサービス推進室作成]

大阪府不妊専門相談センターでは、女性からの相談が多く、相談者が話しやすい環境づくりとして相談員が同性であることを重視してきた。

## 4 相談内容

### (1) 電話相談

電話相談は、・不妊治療を実施している医療機関や治療内容、費用について知りたい、・現在受けている治療内容が妊娠に結びつく可能性を知りたい、・2人目が欲しいがなかなか妊娠しないのはなぜか知りたい、というものが多い。費用に関する相談は、一般的な不妊治療費の目安とともに、医療機関によって金額の差があるので確認することを伝えている。医療機関の対応の様子は、相談者の立場から“通院しやすいか否か”を判断する1つの基準ともなるため、医療機関の雰囲気を知る方法としても問い合わせることを勧めている。

大阪府不妊専門相談センター

不妊・不育にまつわる  
電話相談・面接相談

電話相談専用電話：06-6910-8655  
面接相談予約電話：06-6910-1310

妊娠しない  
原因がわからない?

誰にも話せない、  
わかってもらえない

今の治療でいいの  
だろうか?

今後のことを考  
えると不安

病院の選び方  
を知りたい

自分やパートナ  
ーを責めてしま  
う

二人目を妊娠  
しない

不育症について  
知りたい

娘・息子夫婦に  
子どもができ  
ない

月経のたびに  
落ち込む

養子・里親につ  
いて知りたい

仕事と治療の  
両立が難しい

不妊治療後の  
子育ての悩みを  
聞いて欲しい

治療中の妻を  
どうサポートす  
ればいいのか?

子どもの話にな  
るとつらい

男性不妊の検  
査・治療につ  
いて知りたい

**電話相談** 第1・第3水曜日 10:00～19:00 (第5水曜日・祝日は除く)  
第2・第4水曜日 10:00～16:00 (第5水曜日・祝日は除く)  
第4土曜日 15:00～16:00 (第4土曜日 15:00～16:00は産婦人科医師の相談が可能です。急な事情により変更する場合がございます)

**面接相談** 第4土曜日 16:00～17:00 (30分/1人)  
(産婦人科医師が担当いたします。急な事情により変更する場合がございます)  
※実際に電話による予約が必要となります

**面接相談予約受付電話** 水曜日～金曜日 13:30～18:00 18:45～21:00  
土曜日・日曜日 9:30～13:00 13:45～18:00

主催：大阪府 企画・運営（一財）大阪府男女共同参画推進財団

- ・妊娠しない 受診した方がいい?
- ・誰にも話せない、わかってもらえない
- ・今の治療でいいのだろうか?
- ・今後のことを考えると不安

- ・病院の選び方を知りたい
- ・自分やパートナーを責めてしまう
- ・二人目を妊娠しない
- ・不育症について知りたい

- ・娘・息子夫婦に子どもができない
- ・月経のたびに落ち込む
- ・養子・里親について知りたい
- ・仕事と治療の両立が難しい

- ・不妊治療後の子育ての悩みを聞いて欲しい
- ・治療中の妻をどうサポートすればいいのか?
- ・子どもの話になるとつらい
- ・男性不妊の検査・治療について知りたい

[相談案内のチラシ: 主な相談内容を紹介している。"この悩みでもいいんだ"と思ってもらうのがねらい]

(大阪府不妊専門相談センター)

19

電話相談の継続的な相談内容の1つとして、息子・娘夫婦の不妊に対する不安を持つ母親からの相談がある。相談員は、家族、特に親から妊娠の重圧を受けるとは大変なストレスであり、ストレスは不妊の大きな要因となることを説明し、当事者である息子・娘夫婦に対して不安や不満を直接言わずにそっと見守ることを話している。

## (2) 面接相談

面接相談は不妊治療中の相談者が多く、検査結果のデータや写真を持参する、聞きたいことをメモしてくるなどの準備をした上で、治療内容と今後の方向性について知りたいという相談内容が多い。表4-1のとおり、通院先の医療機関には質問しづらかった、インターネットなどの不確かな情報ではなく医師からの説明を聞いてよかった、などの声がある。



【面接相談のスペース】

平成28年度は11組の利用者のうち8組が夫婦での来所だった。夫婦の利用が多い背景とその工夫として、電話相談で面接相談を案内した際に、相談員から「ご夫婦お2人で相談できますよ」と情報提供している。また面接相談の予約受付の際も「1人で来所されますか？お2人でいらっしゃいますか？」と声かけをしている。これらの声かけによって相談者が「2人で相談に行ってもいいんだ」と思うことが夫婦での来所の促進につながっているのではないかと考えられる。

単身赴任中の男性が1人で来所するケースもあり、医療機関への相談が難しい環境にある方など、様々な属性の方に幅広く利用されている。

### 【表4-1 面接相談の利用者の感想】

- ・主治医以外の意見を聞いて良かったです。
- ・不妊検査や治療について、不安や不明な点に丁寧に答えてもらい、今後の対応についてスケジュール感を持てるようになりました。
- ・不安なことを聞いて、増えていた心配が減りました。医学的なことを知ることができ、不安を取り除くことができました(インターネット等の不確かな情報に不安を感じていましたが、病院では聞けなかったのだ)。
- ・話を聞いてもらい、不安が軽減されました。自分たちでは考えていなかった提案が聞いて、とても参考になりました。病院ではこんなに話ができないので、とても良かったです。

[アフターサービス推進室作成]

## 5 相談の対応事例

以下に、大阪府不妊専門相談センターにおける対応事例の一部を紹介する。

### (1) 不妊治療の検査や治療方法について

Q. 結婚して1年以上経ちますが、なかなか妊娠しません。不妊なのかもしれませんが、検査や治療はどのようなものがありますか。

〔対応のポイント〕

・不妊とされる状態（健康な男女が結婚後1年以上に渡り、定期的に避妊をせずに性交の機会を持ちながらも妊娠しない）、医療機関で一般的に行う検査（女性：内診、経膈超音波検査、子宮卵管造影検査等、男性：精液検査等）について説明している。治療内容については、相談者とパートナーの年齢や検査結果によって異なるため、相談者の背景について聞き取りながら、不妊治療にはいくつかの段階や種類があることなどを含めて話している。その際に、不妊治療の検査は妻（女性）又は夫（男性）のいずれかではなく、夫婦又はパートナーの2人ともが検査することを勧めている。

### (2) パートナーや家族の協力について

Q. 不妊治療をしていますが、妻（夫）が治療に積極的ではありません。お互いの年齢を考えると少しでも急ぎたいのですが、なかなか協力が得られずに困っています。

〔対応のポイント〕

・不妊治療を巡ってパートナーや家族との関係が思わしくない、協力してくれないので困っている、という相談は比較的多く寄せられる。不妊治療は、2人が納得して取り組むことが重要であるので、よく話し合うことを勧めている。

夫婦2人での話し合いが難しいという相談者には、面接相談の案内や、同じような立場にある他の人の経験を聴くことも参考になると伝え、大阪府不妊専門相談センターで実施しているサポート・グループ（後述）を案内している。同グループへの参加によって、「他の人も悩んでいたが、こんな風にやってみたら上手くいった」ことを知り、悩みを解決するきっかけとなる場であることを紹介している。

### (3) パートナーや家族からの支えについて

Q. 不妊治療のために主に妻が通院していますが、治療後の妻はいつも辛そうな様子です。夫として、どのようにサポートすればよいのかわからないのですが…。

〔対応のポイント〕

近年は男性からの相談が増加傾向にあり、事例のように不妊治療に取り組ん

でいる妻への接し方やサポートに関して悩む相談が多くみられる。相談員からは、治療の過程で生じる肉体的な苦痛や精神的な辛さを抱えている妻（女性）の状況を説明し、夫（男性）からどのように接してほしいと考えているか、ということ伝えていく。通院中は治療や副作用によって、痛みや精神的に不安定な症状が起こることを知った上で、辛そうな様子でも夫が治療に無関心にはならず、妻の様子を気遣いながら、ゆっくりと話を聴く時間を持つことが大切であると話している。

## 6 相談受付実績

開設から平成29年5月までの相談件数（延べ）は、電話相談：3,498件、面接相談：72件である。表6-1のとおり、平成24年度以降の電話相談は全般的に250件前後で推移しており、平成26年度には300件を超えている。大阪府不妊専門相談センターでは、相談時間や相談者の年齢層、居住地域や職業など相談者に関する情報を集計している。平成28年度の電話相談の状況として、相談者の年齢層は40歳以上が26%、パートナーの年齢は40歳以上が29.3%、居住地域は大阪市を除く府内の居住が約40%（大阪府以外の居住は約20%）で最多となっている。相談のきっかけはホームページ、インターネットを見て、という割合が65%であった<sup>3</sup>。

他に結婚年数や通院状況、通院期間などの詳細な項目についてもデータ化し、相談者の環境と背景を踏まえた実態把握に努めている。同センターでは、相談を通じて把握できたこれらの情報を分析し、公開講座（後述）のテーマ選定などの運営や広報の戦略等に活かしている。

【表6-1 相談受付の実績】

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
電話相談	262	271	305	257	242
男性/女性	14/248	32/239	45/260	40/217	45/197
面接相談					19(カップル8組)
男性/女性					9/10

※1 面接相談は平成28年度より開始した。

[アフターサービス推進室作成]

## 7 サポート・グループの実施

大阪府不妊専門相談センターでは、不妊に悩む当事者や経験者が集まり、経験を共有する交流会「サポート・グループ」を実施している。異なるテーマで1年に3～4回（3か月毎）開催し、各回は同じ参加者が隔週で集まる形式と

<sup>3</sup> いずれも相談を通じた聞き取りで把握できた割合。各項目の母数には不明の数を含んでいる。（「平成28年度大阪府不妊専門相談センター事業報告」（一財）大阪府男女共同参画推進財団）

なっている。

サポート・グループの特徴は、1つのテーマについて同じメンバーで継続的かつ定期的に話し合うことである。最大の効果は「悩んでいるのは私だけではない」と思える孤立の緩和である。同じ悩みを抱える参加者同士が、互いの気持ちや経験を共有し、不妊という共通の状況にあっても個々の環境や価値観の違いを認め合い、自身の考え方や思いを整理していくことができる。ネガティブな気持ちを含め、何でも言える、共感し合うことができる場があることは、参加者にとって心の拠りどころとなっている。



【サポート・グループの様子：ファシリテーターの助産師が参加】

【表7-1 平成28年度 サポート・グループ実施内容】

	テーマ	期間	時間	内容	参加者数（申込者数）
1	「子どものいない人生のこと、話し合ってみませんか」	6/10～8/19 隔週金曜	10時～12時	全6回	10人登録（23人） 延べ38人
2	「不妊治療後の妊娠・出産・子育てと二人目不妊」	8/24～10/19 隔週水曜	13時～15時	全5回	11人登録（19人） 延べ43人
3	「夫の不妊のこと、話し合ってみませんか」	10/13～12/22 隔週木曜	14時～16時	全6回	6人登録（7人） 延べ32人
4	「子どものいない人生のこと、話し合ってみませんか」	H29.1/14～3/25 隔週土曜	10時～12時	全6回 公開講座1回含む	10人登録（12人） 延べ47人

※1 各回定員12人。ファシリテーターとして助産師が2人参加する。

※2 平成29年度のテーマは「不妊治療後の妊娠・出産・子育てと二人目不妊」、「不育・習慣性流産と治療後流産」、「夫の不妊」、「子どものいない人生のこと、話し合ってみませんか」の内容で開催中。男性を対象とした「治療中の妻へのサポートを考える」(H29.12/2(土))を開催した。

サポート・グループの参加者の感想はごく一部の掲載であるが、いずれも「参加して良かった」という満足感が高い。不安が軽減される効果からか、グループ終了後に妊娠に至ったという報告も、数件届いている。

### 【サポート・グループ参加者の声】

#### 参加の動機

・今まで何となく当然子どもを育てる人生を送ると思っていたが、「そうならないかもしれない」というのが想像でなく実感として持つようになってきた。今後どう生きていこうかという自分の気持ちが、今回のテーマと合っていた。

・まわりに同じような悩みを持つ人がいないので、同じ不妊で悩んでいる人の話を聞いたり、自分の話も聞いてもらいたかった。

・妊娠は、ほとんど諦めているが同じような悩みを持つ人と「これからどう生きていけばいいのか」話し合いたくて参加した。

・数年前に参加し、子どものいない人生を受け入れられるようになってきた時に妊娠したが流産した。その命の意味が少しわかるようになったらと思った。

#### 参加の感想

・参加者の間でも共通していることや違うことがあり、それぞれに色々な悩みやプラスのアイデアがあるのだと思いました。

・自分と同じでホッしたり、そんな考え方もあったのかとハッとしたりしました。聞いたり聞いてもらったりできる場があるだけで心が軽くなることが実感できました。

・治療のやめ時を本当に悩んでいたの、この会でその先の考え方がわかりました。主人と相談する機会を持ち、二人でやっていく方法もわかり、よかったです。

・治療をしていくにあたって夫婦の温度差がすごくあるなあと一人で悩んでいましたが、皆さんも同じように悩んでいるとわかり、少しストレスが解消されたように思います。夫婦関係がこわれてしまっは元も子もないので、協力しあって頑張ろうと思いました。

【平成28年度大阪府不妊専門相談センター事業報告】より引用】

（大阪府不妊専門相談センター）

## 8 セミナー・公開講座の開催

大阪府不妊専門相談センターでは、平成21年度から年に数回の頻度で不妊の当事者や家族、不妊治療に携わる医療関係者やカウンセラーなどを対象として、不妊に関するセミナーや公開講座を開催している。

### (1) 医療以外の情報提供セミナー

平成28年12月に「当事者が語るAID～AIDで生まれるということ～」と題し、AID（非配偶者間人工授精<sup>4</sup>）の現状とAIDを経た家族形成をテーマとして生殖補助医療を考えるセミナーを開催した。

セミナーではAIDで生まれた当事者の方による体験談を通じて、AIDを選択した場合に起こり得る出来事（子自身の複雑な心境、出生した子への真実告知、成長過程で生じる親子関係の課題など）が紹介された。40人の定員に60人近くの申込みがあり、関東地方や近畿地方の他県からの参加者もあった。アンケートによると、実際にAIDを検討している夫婦にとって、当事者の葛藤や生殖補助医療が及ぼす現状を知ることは、大きな意義があったとの声があった。

### (2) 公開講座

公開講座は、サポート・グループの1回を、不妊に関するテーマの講座として開催している。平成28年度は「実子以外の選択肢『里親』を考える」と題して、里親制度を利用して子を得た夫婦と実施団体「公益社団法人家庭養護促進協会」のソーシャルワーカーが講演を行った（平成29年2月開催）。同テーマの講座は3回目となる。今回の参加者はカップル4組を含む19人だった。公益社団法人家庭養護促進協会の職員から制度を紹介する時間を持ち、当事者の体験を聞くことで不妊に悩む当事者に選択肢の1つとして考えてもらうきっかけとなっている。

不妊治療を経て里親制度を利用した体験談を聞いた参加者からは、「生の体験談を語っていたので共感できる場所も多くなったためになった」、「今

大阪府不妊専門相談センター サポート・グループへのお誘い

### 夫の不妊

公開講座：実子以外の選択肢「里親」を考える

平成29年  
10月13日(金)～12月8日(金)  
全5回 10/13、10/27、11/11、11/24、12/8  
11/11のみ土曜日 14:00～16:15  
それ以外は金曜日 14:00～16:00

●公開講座●  
実子以外の選択肢「里親」を考える  
日時：11月11日(土)14:00～16:15  
場所：センター 第4号セミナー室  
講師：(公社)家庭養護促進協会スタッフ  
施設担当者 Yさん(大塚)  
親子当事者 Mさん(大塚市)  
対象：テーマに関心のある方(男性も可)

不育・習慣性流産と治療後流産  
不妊当事者女性対象 公開講座 「育空フォーカシング」を体験する

平成29年  
8月4日(金)～9月29日(金)  
隔週金曜日 14:00～16:00  
全9回(8/4、8/18、9/1、9/15、9/29)

～サポート・グループへのお誘い～

### 子どものいない人生

のこと話合ってみませんか  
公開講座：不妊治療とお金の話～治療にいくらかけても大丈夫？～

平成30年  
1月13日(土)～3月24日(土)  
全6回 1/13、1/27、2/10、2/24、3/10、3/24  
隔週土曜日 10:00～12:00

[平成29年度サポート・グループと公開講座の案内]

4 夫以外の男性から精子の提供を受ける人工授精。

までインターネットで情報を見ているだけだったが、今回初めて参加して一歩を踏みだせた気がする」、「不妊クリニックに勤務しているが、里親制度のことは説明しにくい雰囲気がある。知識が乏しいこともあるが、患者には情報提供していきたい」との声が寄せられている。

大阪府不妊専門相談センターは、サポート・グループや公開講座を通して、悩みを抱える人たちへ「1人ではない」というメッセージを届けたいと考えている。

【表8-1 平成28年度 セミナー・公開講座実施内容】

	テーマ	講師	日時	参加者
1	当事者が語るAID～AIDで生まれるということ～	臨床心理学研究員 AIDで生まれた当事者 Kさん	12月27日(土) 14時～16時	46人 (女性41人/男性5人)
2	実子以外の選択肢『里親』を考える	(公社)家庭養護促進協会ソーシャルワーカー 里親経験者 Yさんご夫婦	H29.2月11日(土) 10時～12時	19人 (女性14人/男性5人)

※1 定員は1:約40人、2:グループ参加者含めて約20人。

※2 平成29年度は「『青空フォーカシング』を体験する」、「男性不妊治療・検査の最前線～その現状と対策～」、「実子以外の選択肢『里親』を考える」、「不妊治療とお金の話～治療にいくらかけても大丈夫?～」の内容で開催中。

[アフターサービス推進室作成]

## 9 情報の発信

### (1) ホームページの活用

大阪府不妊専門相談センターでは、ホームページによる情報発信を積極的にやっている。事業内容などの基本情報に加え、サポート・グループ参加者のコメントや講座の感想を掲載しており、利用を検討している人に向けた具体的な参考情報となっている。不妊に関する基礎情報として「不妊の基礎知識」、「不育の基礎知識」、「男性不妊」などのテーマを解説するページを設け、必要な情報をわかりやすく伝えることに留意している。平成28年9月からは、同センターの電話相談に当事者の親からの相談が少なくない現状を受けて「不妊に悩む人の周囲の方々へ」というコンテンツを追加した。

年度毎に事業内容を検討し利便性の向上を図り、相談を考える人たちが、センターを利用するに当たってハードルを低く感じることができるよう努めている。

### (2) 事業に関連した周知

大阪府不妊専門相談センターでは、サポート・グループや公開講座などの開催案内について、チラシを作成し不妊クリニックや図書館などに配布するとともに、新聞や地域で配布されるフリーペーパーなどを通じた周知も行っている。

また、新聞に不妊治療の当事者に関する連載記事が掲載された際には、同センターが実態を含む情報提供に協力した。

ドーンセンター内のライブラリーでは、妊娠・出産・不妊に関する書籍を紹介するスペースを設置している。関連書籍を展示し、大阪府不妊専門相談センターの利用者だけでなく、ドーンセンターの利用者が気軽に立ち寄り、テーマに触れることを目的としている。[ドーンセンターのライブラリー: 妊娠・不妊に関する書籍を紹介・貸出]



## 10 大阪府不妊専門相談センターから寄せられた課題と今後の展望

### (1) 課題

運営に当たっての課題は、不妊に悩む当事者を支援するセンターの役割を周知する必要が挙げられた。相談の利用者やサポート・グループの参加者からは、「もっと早くセンターの存在を知っていれば、悩みが深くなる前に相談した」という声が多く、必要な人へ正確な情報が届いていない現状がある。

### (2) 今後の展望

大阪府不妊専門相談センターの周知に関する対応としては、行政との一体的な広報を推進するとともに、SNSを利用し若い世代への周知も図っていく。

同センターでは、養子縁組やA I Dで誕生した子どもへの支援など、不妊治療の先にあると考えられる社会的な課題について情報を提供し、不妊に悩む当事者が考え、選択する機会を提示している。同センターでは、今後、潜在している不妊に悩む男性の相談の増加や、生殖補助医療で誕生した子どもの相談などを想定し、医療面以外の継続的な心理的支援の必要性を感じている。様々な問題を含む困難な課題に対し、正確な情報を伝え、苦悩する当事者に寄り添った支援を続けていきたいと考えている。